



高橋 博夫

Hiroo Takahashi

主な活動分野：俳句、文芸評論、美術評論、雑誌編集

プロフィール：

1957年3月茨城県生まれ。幼少期を福島県郡山市で送り、1965年以降は埼玉県に居住。1979～2007年、公立学校教員／1981年より文芸同人誌『孤帆』（浦和市の北原立木代表）に参加し、今日まで評論・俳句などを発表している／1990年、森澄雄主宰の月刊俳句誌『杉』に参加、1993年に同誌の同人となり、またその編集に従事（～1999年）。1998年4月、第一句集『春雪』（花神社）上梓。2010年8月の森澄雄死去をきっかけに『杉』退会。翌2011年1月に上野一孝とともに季刊俳句冊子『梓』を創刊、その編集人となる。俳人協会会員／2004年11月にさいたま市別所沼に建った「ヒアシンスハウス」（立原道造 [1914-39] の設計）を維持・管理する「ヒアシンスハウスの会」で主に会報の編集を担当／「立原道造の会」会員／會津八一を顕彰する「秋艸会」（新潟市）会員。

メッセージ：

文芸誌などの編集の傍ら俳句と評論などを発表し、また主に現代美術を中心として美術評論を執筆している。文芸に限定することなく、さまざまなジャンルの人々との交流を通して、今日的な文化の新しいかたちを編みあげていきたい。

SMF事業への参加歴：

2008年《LINK! ミュージアムからアート風を!!》、2009年《SMFアートのわっ! あつまれアートのつむじ風》、2010年《交差する風・織りなす場—SMFアート楽座・アートバンク 2010》において運営委員として、主に記録集の編集を担当している。

■高橋博夫 俳句抄■

あらたまの初日さし入る子のまつげ
春の雪めざめあて目をつむりをり
轉りや拾ひし父の喉仏
ひとしきり時さかのぼり花ふぶく
夕ざくら妻に叱られ子に泣かれ
鶯舞へり春の岬を円心に
樞とめてながされてゐる桜かな
ぼうたんの花やはらかに傷みけり
べつたりとはりついて子の昼寝顔
もののふのころふみぬく秋の風
秋灯洗ひあげたる哺乳壺
鰯雲かへらざるもの皆はるか
くさぐさも息つぐころか鳥渡る
おはらひを上目づかひに七五三
里芋の炊き汁くもる寒さかな
かの一座かなたに一座山眠る



句集「春雪」



季刊俳句冊子「梓」